

2)

時事新報

日本 満洲の開拓は朝鮮の獨立論より端を發して發端より我主義の正しさは申す迄もなく爾來戰爭の實際を見るに陸戰に海戰に看々異常の效を奏して一回だも遠算あるみとなし我忠勇精義の兵を以て尊怯未熟の敵に臨む勝敗利銃の數、自から然らざるを得ず毫も怪しむに足るものなしと雖も然れども平壤を始めとして旅順の如き威海衛の如き彼が其天然人爲の防禦力を盡して守りたるにも拘はらず頃刻の間に之を陥れて然かも我の失ふ所は極めて少なり殊に海軍に至りては世界の歴史上に珍らしき大海戦を戰ひて偉大の功を奏し遂に敵の海軍力を殲滅して隻影を留ざるに至らしめながら我に於ては最初より一隻の船艦さへも亡はざりしが如き卒然ふれを見るとときは其功の非常にして事の意外なる所謂神試に昨年開戦前の有様を見よ我國の地位は果して如何なりしや朝鮮は日本が世界に對して紹介の勞を取りたる獨立國なるにも拘はらず支那の爲めに殆んど主導權を握られて獨立の名あれども其實なきのみならず日本朝鮮に於ける勢力は陰に陽に支那人に壓せられたる現に我人民が彼地に於て蒙りたる損害さへも容易に償を求むるを得ず朝鮮人にさへも輕蔑せらるゝ有様なりき又西洋諸國に對しては如何と云ふに漸く條約改訂の端を開きて年来外交上の風唇は稍や伸びんとするの色を現はしたれども一般の外國人は日本を覗くるる未だ重からずして適度好評を聞くも山川の風景を賞するか若しくは美術の巧妙を説くに過ぎずして恰も児のわざけなき容姿を覺するも一般なりしに然るに戰

争の結果として清韓兩國に對する地位の全く一變した
るは申す迄もなく世界の表面に於て昨日までは可憐の
稚女も忽ち偉然たる丈夫と爲り優に諸強國の列に入り
たるは疑なき事實にして其變化の迅速なる自から回
顧して恰も夢の如きの感なきに非ず戰爭の効能偉なり
と云ふ可し又支那と戰ふに就て勝算は豫め期したる
所なれども戰爭の爲めに國內の疲弊を致すは古來の通
例にして今度の戰とても此一點は免る可らずとて察に
掛念したる所なりしに開戦以來今日までの有様を見れ
ば豈に國らんや豫想とは反對にして國內の商賈工業等
は毫も難難を感じたるの模様なく殊に外國貿易の如き
戰爭中にも拘はらずして無事に行はるのみか前年に
比すれば寧ろ繁昌の色ありと云ふ既に商賈貿易に影響
を感ぜざるときは幾年之間戰を繼續するも容易に致
轉を致すみとはなかる可し況んや僅々一年にも足らずさ
る時日の中に於てそぞ實に豫想外の現象ならず云ふ可
し左れば今回之戰爭は敵に向ては百戰百勝請合ひと
も云ふ可き其上に内國にては之が爲めに毫も苦痛を感
するものなく唯國威のます／＼發揚するを見るのみな
なさに至る可しその掛念もわらんなれども支那四百餘
州は到る處豊饒の地にして其國民も亦決して貧ならず
飽までも戰ふて敵を窮追するときは遂に得る所のもの
争とも云ふ可き其戰爭を彼の懇請に任せて中途にして
和議を講ぜんとす彼に於ては非常の恩惠として感謝する
所なる可し思ふに今日まで戰争にして恰も保險附の戰
争を發揚せしめたるは偏に陸海軍人の力に外ならず
す而して平和の談判に就き彼をして恩恵に感佩せしむ
ると同時に連戦連勝の結果を我に收め戰爭以來博り得
たる聲譽を實際に實にするものは一に外交官の伎倆であ
如何に在り我輩が一般の國人と共に特に刮目して見ん
と欲する所なり

○人情學說 ノンキ散人抄譯

婦人の男子論 凡そを男子の性質に就き婦人の心に最も嬉れしく思ふは何なりや最も癪癖に觸るは何なりやと云へる緊急問題が此は米國婦人社會の歴々に質問されし所の答は勿論、千差萬別にして例へば或る妙論貴婦人の立論に男子に於て免す可らざる一大罪惡は婦人の麗質に無感じなるみとなり蓋し婦人の自愛心と害へばなりと又或る既婚婦人の説に男子の戀ての過失中、最も大なるは自分勝手なりと云へり第三の應問者は云く男子の性質中、最もキザなるは不實なりと然るに第四の答辨者は自惚を以て厭ふ可き奴候の冠とせり如何となれば云は優しき心思通りと婦人の爲めに力を致す赤心との缺乏を意味すればなり數多の貴婦人々斯の如きヤンフリしたるふとにては飽き足らずと見え男は何でも向ふ見事にして無鐵砲の勇氣を振ひ女をして胸ドキつかして手に汗を握らしめ總身の力を男の安危に注ぐ爲め情緒興奮して眼光り頬色紅を帶ぶるに至らしめざる可らずと論ぜり

拙の結論に就き貴婦人連が論據とする所は種々様々なり一人の貴婦人は云く男らしき氣風の缺乏は男子の最大缺點なり如何となれば云は即ち男子を婦人より區別する所の特質なればなりと然るに「美人を擒るは勇士あるのみ」と云へる格言を信仰する連中は斷言して云く婦人は若しも男が形態上の勇氣に富みたらんには其男が假令ひ不身持ち不行跡にして己を殘酷に取扱ふは愚か其男に實際犯罪のふどありとも是等は總て實に介せざる可く論より證據、運動場の隊長は敷場の粗

頃よりも女生徒の甘心を買ふに非
今日の婦人を以て昔むかし武者修
強盜もすれば喧嘩もし亂妨根柢至
社会の禮儀作法を蹂躪せしにも拘
勇氣の一點を悦びたる宮女と心事
美人の心を揃へる秘傳 然れども右
むるに國家の爲めに戦場に一聲を
の男子が形態上の勇氣を以て美人
だ覺束なし又千軍萬馬の間に萬夫
の勇者とても彼の交際社會に必要
て恍惚たらしむる優美の動作を缺
の心を落城せしめんふと思ひ乍ら
が奥方を探すには甚だしき困難を
らしからぬグニヤーとした男を
徳行に富みし國慶も詳しく述べ所
ど而も尚ほ斯る男が盜賊か來た
隱るじに拘はらず人並に妻を娶
るを如何せん